

## 東海財界倶楽部第54回例会開催 JICA 中部・鈴木さん「国際協力の現場から」

弊社の異業種交流会「第54回東海財界倶楽部例会」は9月7日の昼、名古屋市東区のホテルオークラレストランで開催された。講師は、独立行政法人国際協力機構中部センター（JICA 中部）の研修業務課主事、鈴木知恵さん。鈴木さんは弊誌8月号で紹介された、ウクライナの教員を支援する「産業技術教育」遠隔セミナーの担当で、この日は「国際協力の現場から」と題して、アフリカに通算5年間滞在した経験を中心に JICA の活動、企業との関わりなどを話した。



鈴木知恵さん

静岡県出身の鈴木さんは、大学在学中にフィリピンの孤児院でボランティア活動をして、国際協力に強い関心を持ったこと、名古屋へは母子赴任で、静岡在住の夫とは週末に会う生活、などと自己紹介。大卒後、商社勤務、オーストラリアで2年間語学学校へ通うなどして、JICA の海外青年協力隊隊員としてケニアで2年間活動。その後 JICA 職員となり、2013年から3年間、ガーナ事務所に勤務した。現地での驚いた体験や活動内容、人々との交流などを映像で示しながら説明した。

協力隊員として訪れたケニアでは地域の課題である「貧困」について、インフラ整備がなく、森林伐採による薪不足や湧水汚染、人口密集などの影響を指摘。衛生教育に取り組むとともに、村を巡回しながら村人が継続して安全な飲み水を確保できるよう現地の材料で湧き水のろ過装置を作るなどした。また、女性グループが副収入を得られるようにとトマトのジャムを作って販売し、現地の子どもたちに日本文化を伝える活動などもしていた。

一方、ガーナ事務所では、副大統領を表敬訪問、保健班として現地スタッフと協力して仕事に取り組み、現地での協力隊の活動状況も視察。JICA の事業については、世界150以上の国、地域で国際協力を行い、ODA（政府開発援助）

のうち、技術協力、無償資金協力、国際緊急援助など JICA の業務の概要、事業規模などをグラフで解説した。

現在、JICA 中部で鈴木さんが担当しているのはウクライナへの遠隔セミナーによる教育支援のほか、研修員受入事業など。長期研修員として豊橋技術科学大学で工学修士号を取得したエジプト・アラブ共和国出身の男性が、企業へのインターンシップで小牧市の建設会社に就職し主任技師として活躍している事例を紹介。海外協力隊の連携派遣では外国で活躍できるグローバル人材を育成、企業の海外展開への足掛かりとして活用できることも説明し「企業からの問い合わせがあれば対応したい」と述べた。この日の参加者には企業経営者も多く、人材確保の視点から鈴木さんの話を興味深そうに聞いていた。

鈴木さんは講演の最後に「元研修員の友人もいて、その国も大切。世界の問題は地球上の問題であり、同時に友達の問題でもあると思っています」と語り、「大切に思う人・国がある。そこから国際協力が始まる」とのメッセージで締めくくった。

なお、鈴木さんの講演には JICA 中部の小森正勝所長も同席し、講演を挟んで参加者と名刺交換するなどして、交流を深めていた。